

## 取扱いの趣旨

ランソプラゾール又はエソメプラゾールマグネシウム水和物は、血栓・塞栓の形成抑制のために低用量のアスピリンを継続投与している患者への投与は、胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往が確認できない場合、原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【投薬】 《令和7年1月31日》

430 低用量アスピリン投与時におけるランソプラゾール及びエソメプラゾールマグネシウム水和物の算定について

### ○ 取扱い

低用量アスピリン投与時における、胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往がレセプトで確認できない場合の次の薬剤の算定は、原則として認められない。

- (1) ランソプラゾール【内服薬】（タケロンカプセル等）
- (2) エソメプラゾールマグネシウム水和物【内服薬】（ネキシウムカプセル等）

### ○ 取扱いを作成した根拠等

ランソプラゾール（タケロンカプセル等）又はエソメプラゾールマグネシウム水和物（ネキシウムカプセル等）のうち、「低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は低用量アスピリン投与時における十二指腸潰瘍の再発抑制」の適応がある薬剤については、添付文書で投与に際しての注意事項として「血栓・塞栓の形成抑制のために低用量のアスピリンを継続投与している患者を投与対象とし、投与開始に際しては、胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往を確認すること。」と示されている。

以上のことから、低用量アスピリン投与時に胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往がレセプトで確認ができない場合のこれら医薬品の算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)  
当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト  
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ  
取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、  
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

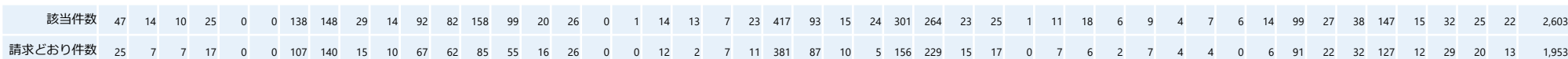
- 全国の査定・返戻割合 24.97%
- 検証対象都道府県 41

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	富山、岐阜、徳島、茨城、三重、福岡、愛知、宮崎、兵庫、熊本、山梨、長崎、佐賀、新潟、大分、鹿児島	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	三重、熊本、愛知、福島、茨城、佐賀、富山、兵庫、宮崎、長崎、福岡、和歌山、島根、鹿児島、奈良、大阪	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	福島、佐賀、山梨、熊本、山口、岩手、兵庫、三重、高知、愛知、長崎、群馬、富山、埼玉、大阪、滋賀	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,603件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	650件
検証を必要とする審査	請求どおり	1,953件

(%)



Change, Challenge, Chance  社会保険診療報酬支払基金  
Health Insurance Claims Review & Reimbursement Services